

学校運営協議会 議事録

学校名	大阪府立大阪南視覚支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	令和2年 7月 16日(木) 10:00 ~ 11:30
開催場所	大阪府立大阪南視覚支援学校 会議室
出席者(委員)	委員長、副委員長、委員3名
出席者(学校)	校長、教頭2名、事務部長、課長補佐、首席3名、部主事3名、教務部長1名、保健部長1名
傍聴者	なし
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度 大阪府立大阪南視覚支援学校 学校運営協議会 委員名簿 (資料1) ・ 大阪府立大阪南視覚支援学校 学校運営協議会 実施要項 (資料2) ・ 令和2年度 学校経営計画及び学校評価について (資料3) ・ 年間授業日数について (資料4) ・ 大阪府立大阪南視覚支援学校オンライン授業ガイドライン<確定版> (資料5)
備考	

議題等(次第順)	
<p>【協議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大阪府立大阪南視覚支援学校 学校運営協議会 実施要項について(校長) (2) 令和2年度 学校経営計画及び学校評価について(校長) (3) 令和2年度 学校概況について(校長) <p>【報告題】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 使用教科書の採択について(教務主任) (2) 新型コロナウイルス感染症への対応について(保健主事、教務主任、高・専部主事) 	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>【協議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大阪府立大阪南視覚支援学校 学校運営協議会 実施要項について(校長) (2) 令和2年度 学校経営計画及び学校評価について(校長) <p>※(1)(2)あわせて報告</p> <p>前回の提示からの変更点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の指標として、満足度に数値を用いる。 ・ 前年度との比較を入れる。 <p>〈行事について〉</p> <p>入学式、スポーツフェスティバル、文化祭は中止とするが、子どもたちの成果発表の場や交流の場を設けるために、各学部ごとに「授業発表」を行う。</p>	

〈オンライン授業について〉

コロナウイルス感染拡大第二波に備え、双方向のオンライン授業について準備を進めている。また、感染症対策とは別に、文科省で「GIGA スクール」構想で、高校生（高等部）を対象に1人1台PCが配布される予定である。学校のカメラつきPCの確保や家庭のネット環境充実は課題である。

〈専門性向上について〉

在籍者数の減少は、専門性の向上における課題である。在籍者数は、昨年度 87 名から今年度 79 名に減少した。ここ数年毎年 1 割減の状況が続いている。それに伴い学校運営が厳しくなっており、全国の盲学校でも同様の報告があがっている。ただし、次年度は、地域の小学校から本校中学部への入学を希望している児童が多数おり、希望者が全員入学した場合、中学部在籍者は倍増する。高等部は依然として減少傾向にあるため、いかに外部からの入学性を増やすかが課題である。また、専修部も情報を必要とする方に、適切な情報が提供できるよう引き続き取り組んでいく。

委員：地域の学校からどれくらい本校を希望しているか。

事務局員：小学部 5 名、中学部 8～9 名、高等部はこれから就学相談を設定する。専修部は今後オープンスクールを予定しているが、現時点の相談件数は 2、3 名である。

委員：数年にわたり在籍者数の減少が続いている。根本的な問題として捉え、南北の視覚支援学校で連携してはどうか。

校長：連携のあり方や方法を検討していく。

委員：地域の支援学級の生徒は増えているのか

事務局員：地域の学校への入学が決まっているところからの相談もある。地域の学校に支援に行ったことがきっかけとなり、本校に転入してくる事例もある。

昨年度は新型コロナの影響もあり地域での支援は 60 名程度であったが、例年 80 名程度へ支援をしている。また、他の障がい種の支援学校からの依頼も多い。

委員：地域支援で本校の専門性が評価され入学者が増えているのは喜ばしい。

(3) 令和 2 年度 学校概況について (校長)

全校的に在籍者数が減ってきている。専修部の学生が在籍者全体の半数を占める割合は変わっていない。以前は、幼稚部から地域の小学校へと進んだ児童のその後は分からなかったが、最近では地域支援を通して保護者や地域学校との連携ができるようになってきた。本人・保護者の障がい受容の段階に合わせて、適切な形で支援をしていきたい。

〈新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休校により延期している行事と授業日数の確保について〉

- ・ 修学旅行：小高等部は 11 月に実施予定、中学部は今年度の実施は見送る。
- ・ スポーツフェスティバルと文化祭：全校行事としては行わず、学部ごとに実施する。
- ・ 授業日 (175 日) の確保：1 学期の延長 (～ 7 / 31、10 日間確保 / 専修部 3 年生は～ 8 / 7、15 日間)
2 学期の延長 (8 / 17～12 / 25、創立記念日を授業日、12 日間確保)
3 学期の延長 (1 / 7～、卒業式を 1 週間遅らせる)

※ 7 月 8 日 (水) の大雨警報による休校で、高等部 3 年生は 175 日ちょうどになってしまった。

委員：従来通りの実施は難しいだろう。次年度できることを願っている。

(4) その他

なし

【報告題】

(1) 使用教科書の採択について（教務部長）

6月中に来年度の教科書を採択し、必要数を教育委員会に報告している。12月に最終報告をする。義務教育においては確実に教科書を配付することから冊数に誤りがないよう気を付けなければならない。特に、点字教科書は1冊1万円程度×分冊×教科数となるので高額であり、入学予定者数に変更が出ないか気を付けている。

- ・ 中学部は来年度に教科書が変わる。教科書は4年間同じものを学部として使用することになっている。
- ・ 本来は教科書3社を候補にあげるが、点字教科書に関しては点字化されている物を選ぶしかない。
- ・ 中学部、高等部の弱視児・生徒はiPad教科書も使用している。分冊がなく持ち運びが容易であり、拡大率や色のコントラストも個人のニーズに合わせて変えられてよい。ただし、「書く」力が育まれにくいため、教科書に直接書き込んだりプリントやノートに書きとるような授業の設定に留意しなければならない。
- ・ 点字教科書については、図や写真をそのまま点字化するのではなく説明文を追加するなど点訳者が工夫をしている。指導者は墨字教科書と点字教科書で表記が異なる場合もあることを理解し、把握しながら授業を進める必要がある。

委員：自分たちの団体では広報誌を会員に配付する際、墨字・点字に加えデージーも用意している。全盲の方でも点字を読めない方もいる。学校では墨字と点字の使用者の割合はどれくらいか。また、文字以外の媒体はあるか。点字はいつから習うのか。

事務局員：専修部はデージー教科書も採択している。

事務局員：点字の初期導入は幼稚部から遊びの中で取り入れている。

事務局員：中途失明の方や進行性の眼疾患の方の中には墨字・点字共に読めない方もいる。専修部では、拡大・点字・拡大+デージー・点字+デージーと4種から学生が選んだ教科書を使用している。しかし、デージーを選ぶ学生が、皆デージー機器の扱いに長けているというわけではない。点字に移行することの心理的な負担や点字習熟に必要な時間の負担などがあることにも配慮しなければならない。何らかの形で自身の考えを出力できなければならない自分で書いたものを読み返すために点字を書けるようになることを進めているが難しい。

校長：点字使用者は2割、墨字使用者は6～7割、音声使用者は1～2割である。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応について（保健部長、教務部長、高・専部主事）

1. 保健部長報告

感染防止のため、教職員の基本対策と授業での対策、給食指導時の対策、消毒対策を行っている。

①教職員の基本対策

- ・ 教職員は全員マスクを着用し手洗いを徹底する
- ・ 出勤前に検温をする

- ・手指や使用物の消毒をする
- ・密を避ける

②授業での対策

近づいてしっかりと見ること、じっくりと触って学ぶことの大切さを理解したうえで対策と工夫を講じている。また、対策を徹底したうえで、生徒自身にも感染症対策の指導を行っている。

- ・密を避ける授業を設定する。
- ・教具は共有しない。複数学部が使用する者は担当者が授業ごとにアルコール消毒をする。
- ・教室を換気する。

③給食指導時の対策

- ・2mの距離の確保のため食堂の利用定員は1/4程度となっている。全員が一方向を向いて喫食するよう机の配置を変更している。
- ・介助者はマスク・三角巾・エプロンに加え、フェイスシールド・マスクカバー・手袋を着用する。また、複数名に介助をする際にはその都度装備を交換するよう定めている。介助と自身の喫食を同時に行わない。
- ・新しい生活様式に倣い、食事中は会話を控えるようにしている。食育の観点から毎日給食放送を流し、楽しんで食べる雰囲気づくりを心掛けている。

④消毒対策

・1日に1回以上全教職員で担当場所の消毒を行っている。直接口に触れたり塩素消毒ができない教具についてはアルコールで消毒をしている。その他の施設消毒は次亜塩素酸ナトリウム(ハイター)を希釈したものを使用している。アルコールの入手が困難であるため次亜塩素酸ナトリウムで対応している。

委員：消毒場所と時間について具体的に教えて欲しい。

事務局員：消毒場所は、HR教室、特別教室、廊下、バス、トイレ、エレベーター、門扉、自販機など学校生活の中で触れる可能性があるか所については全て担当を決めて行っている。次亜塩素酸ナトリウムは直接手で触れると危険なため、放課後に一斉に消毒・薬品ふき取りを行っている。学部ごとに対応している。

委員：遠隔会議は実施していないか。

校長：近文連はZoomのアプリを用いてWeb会議を行っている。

2. 教務部長報告

授業日と行事日があり、授業日として定められている日数は175日である。行事日には式典、スポーツフェスティバル・文化祭、泊を伴う活動(宿泊学習・修学旅行)が該当する。

〈授業日確保の方法〉

1学期：7/31まで授業を行い、19日を確保。専修部3年生は8/7まで授業を行い、24日を確保。

2学期：8/17～12/25を2学期とし、10/13の創立記念日も授業を行うことで、12日確保。

3学期：1/7から授業を開始し、卒業式を1週間後に設定する。

- ・文化祭は中止し、授業内で学部ごとに発表の場を設ける。
- ・7/8の大雨警報による休校で、高等部3年生の授業日は175日丁度になっている。他は2～3日余裕がある。今後臨時休業があれば土曜日の授業設定も検討する必要がある。

委員：資料を見ると幼稚部は175日に達していないが大丈夫か。

事務局員：幼稚部は義務教育ではなく、授業日数が定められていないので問題ない。

3. 各部主事報告

●高等部主事

- ・休校中は相互通信の授業を展開するために、Zoomを使用した。5月末には週10コマの授業を行った。実施に当たり、事前に各家庭のネット環境について調査している。
- ・通信容量の心配や、タブレットのみを使用する生徒はiPad教科書とZoomの同時利用が難しいなどの課題があった。

●専修部主事

- ・新型コロナの影響は学生の経済状況に及び、休学を余儀なくされた方もいる。
- ・休校中はDVD教材を配付した。実力テストを家庭で実施したり、随時課題を出したりした。実家に帰省していた学生はデジ再生機器を持ち帰っていなかったため課題ができないというケースもあった。一方で、前年度は学力に遅れが見られていた学生が在宅学習でじっくりと課題に取り組むことができ、成績の向上がみられるケースもあった。
- ・応用コミュニケーションの授業では、今年度から2展開を同時中継で実施している。Zoomを使って3分間スピーチなどに取り組んでいる。複数台を同じ教室で使うとハウリングがおきることや本校のサーバ容量では映像がフリーズしがちになる課題が分かった。手探りの状態が続くが、学生は積極的に取り組んでいる。
- ・人権研修と進路研修を併せ、校内で2教室にわかれてZoom開催を試みる。テーマは「マナー」で、講師を招へいして行う。今年度はオンライン面接の体験も組み込んでいる。
- ・Zoomでの会議も試行中。
- ・オンライン授業に向けて、「つながろうキャンペーン」を実施中。校内で担任と学生がZoomを体験。教員の理解度に差があるのが当初の課題であったが、実際に取り組むことで共有化が図れている。
- ・臨床実習は、6月は自分の体のみ、7月上旬は担当者と学生のみ、中旬に校内臨床へと段階を踏んでいる。今週からようやく外来を開始している。8月からは患者を受け持ちする予定。外来開始にあたり、患者にもアルコール消毒と検温の徹底をお願いしている。学校現場の臨床で感染を引き起こすと、業界にも多大な影響を及ぼしてしまう可能性があるため徹底している。基礎実習については、担当者が学生の手洗いと消毒を確認するようにしている。
- ・理学療法科3年生の病院実習は実習施設の感染症対策に合わせるようになるため、フェイスシールドの着用などを想定している。しかし、最近の感染者数増を受け、実習が中止となった。
- ・大阪市立大学医学部の解剖実習は中止。12月～2月に実施される標本を触る実習については、貴重な機会として打診している。

●幼小部主事

- ・プリントと音声データを配付。
- ・オンラインに馴れるために授業内で取り組んでいる。
- ・各家庭に合わせた形を模索中。

●中学部主事

プリントとCDを配付。国語はオンライン授業を実施。理科はwebで動画配信をしたところ生徒3名に対し視聴者50名と予想外の反響があった。

(3) その他

学校教育計画は第2回に配付する。専修部の案内パンフレットを刷新した(写真が増え、明るいイメージになっている。)

次回の会議日程

日時	令和2年11月上旬(予定)
場所	大阪府立大阪南視覚支援学校 会議室